

年頭にあたって

医薬流通産業としての 魅力を発信する

あけましておめでとうございます。

日ごろから日本医薬品卸売業連合会の活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。2022年は国際的にも業界的にも変動の時期にさしかかっていると感じさせる一年でした。

「医薬流通産業」として

新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから既に3年が経過しようとしています。ワクチンが流通しても、治療薬を使用できるようになっても、ウイルスは変異を続け未だ収束の見通しがつかない状況です。このような中、各社におかれましては通常の医薬品供給に加えて、新型コロナワクチンの配送も受託され社会的責務を全うするために奔走されていることに改めて感謝を申し上げます。

今冬には新型コロナの第8波だけでなく、季節性インフルエンザの同時流行も予測されています。会員各社の皆さまには感染防止対策を充分にとり健康に留意されつつ業務にあたっていただければと思います。

昨年の医薬品流通に関する問題といえば、後発医薬品メーカーの不祥事に端を発する供給不足が挙げられるでしょう。会員各社のMSの方々は、医薬品の安定供給のため代替品の確保や出荷調整にかかわる膨大な業務に忙殺され、かなりの負担になっているとお聞きます。この状況は数年続く

と予想されます。この問題の根本的な解決のためにも関係各方面と調整を図り、薬を待つ患者さんのために努力してまいりたいと思います。

有識者検討会と中医協

このように新型コロナワクチンの流通や問題となっている後発医薬品の回収、出荷調整などからもサプライチェーンの一端を担う医薬品卸の重要性は認知されてきているのではないかと感じています。昨年は「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会」（以下「有識者検討会」）や中医協において何度か意見陳述の機会がありました。また、昨年は日本薬業政治連盟とともに岸田総理はじめ議員の先生方とお話する機会をいただくことができました。

有識者検討会は昨年8月末に、構成員に利害関係者を含めず、有識者だけで流通、薬価制度、産業構造の検証など幅広い議論をする場として設置されました。既に7回開催されており、9月29日には業界意見聴取に出席し、医薬品卸は、薬価制度の影響を強く受ける特殊な流通の中に置かれていることを述べた上で、持続的な安定供給に向けて総合的な議論をしていただけるよう、医薬品卸の現状や課題を踏まえた今後の対応の方向性について説明してまいりました。

この検討会では、今後の流通や薬価制度の在り

一般社団法人
日本医薬品卸売業連合会
会長

鈴木 賢



方について、中医協とは違った立場で、本音に近いところで議論が行われております。卸連合会としては、この検討会の動向をしっかり注視し、適切な対応に努めてまいります。

中医協では、「令和5年度薬価改定について」を議題に審議が進められ、12月7日には、業界意見陳述が10月26日に続き行われました。流通現場における業務の逼迫状況や経営環境は厳しい状況にあり、安定供給のリスクが高まっていることを説明した上で、中間年薬価改定に対する意見を申し述べました。

今後も、様々な機会を通じ、卸連合会として医薬品の安定供給の維持・強化に向け、適切に対応してまいります。

IFPWミラノ総会

2022年10月18日～20日にIFPW総会がミラノで開催されました。コロナ感染状況を鑑みて卸連合会からはIFPW理事である私と中北社長、卸連合会のメンバー数名で参加してまいりました。ミラノ総会は、「パンデミック後の医薬品卸・薬局・ヘルスケアサービス企業の役割」をメインテーマで開催されました。総会の講演等におきましては、ESG、デジタル化に関することが多く演題化されていきました。卸連合会におきましても「医薬流通産業形成・DX推進委員会」を新たに設置しており、

現在活発な意見を交わしながら検討を進めておりますが、これからは次世代の医療に対応しつつ、環境に配慮した物流体制が求められると考えております。

2023年は不確実な時代へ

コロナ禍、出荷調整、そしてロシアのウクライナ侵攻にはじまるエネルギー高騰や物価上昇、円安の影響による労働力不足など、卸経営に直結する要素が不確実性を増してきています。それに対応するために、卸が自助努力でできることは何でしょうか。

それはDXによる効率化・コスト削減、サプライチェーンの変革、環境問題やエネルギー問題を考慮した事業活動かもしれません。そういった意味からもSDGsに取り組む意義も感じており、社会貢献意識だけではなく、業界としての魅力を作り出さなければ今後労働力の獲得も難しくなるでしょう。

このような不確実な時代ではありますが、当連合会では、社会インフラとしての存在感を発揮しながら業界からの発信力も高めていきたいと考えております。会員企業の皆さまのご協力を賜りながら少しずつでも変化を起し、業界の発展につなげていければと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。